

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュかかみがはら		
○保護者評価実施期間	R8年8月17日 ～ R8年9月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	R8年8月17日 ～ R8年9月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年9月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動遊び 発達の土台を作る運動療育を基本に日々子どもたちの「その子・そのとき・したいこと」が子どもの「発達」につながり、「走る」「回る」「飛ぶ・・・」「満足いく」までの身体にアプローチが入ることで学習・運動・コミュニケーションの基礎となる土台を積み上げる支援を行っていることです。	・色々な遊具を組み合わせた粗大運動を子どもたちが楽しいと思えるように創意工夫をしています。子供たちも飽きることなくで「きた！見て」と色々なことにチャレンジできるように取り組んでいます。・個別の支援と集団活動でのメリハリと専門的支援の実施を子どもに合わせて支援ができるように工夫しています。	・個別の支援を見える化し強みや弱みを理解した上で有効な支援方法をスタッフ間で共有し、個別や集団の支援の充実を図れるように専門的支援実施の共有とスタッフ間の連携を行っています。また保護者へのフィードバックを行い家庭で実践できることを伝えています。
2	静か遊び 運動遊び以外にも子どもが自主的にこれがしたいとリクエストができるように「あたま」「手先」「こころ」を使って遊べる時間として静の活動も充実しています。自分がしたい活動を自分で決める事・最後までやり遂げる力・考える力を育てられる支援を行っています	・友だちと場所や玩具を共有して遊びながら友だちとのやり取りやコミュニケーションを取れるように支援を行っています。また苦手なことでも挑戦したい気持ちを引き出せるように誘いかけ、友だちと共有することで刺激を受け自然に苦手なことでも克服できるような働きかけを行っています。	・静と動のメリハリをつけ、友だちとの距離間やコミュニケーションの取り方・玩具の共有の仕方等円滑に行えるようにパーテーションで区切ることで落ち着いて集中して遊べるスペース作りを行っています。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・未就学が多いため外出の活動の計画が立てられない ・地域との交流の機会が持てない	・送迎の時間が保育園や幼稚園と学校の時間が分散しているため全員がそろう時間が15時過ぎる	・平日の短時間でもできるイベント等の企画を考えて取り組みたい。
2			
3			